南青協便り第 220 号

南米産業開発青年隊協会会報 2023 年 4 月 10 日発行
Boletim n.220 Seinentai do Brasil : Edição 10 de abril de 2023

２月２６日、新年会が隊員１７名と夫人７人、日本の大学の研究員２名、新聞社編集長の参列で賑やかに開催されました。

顔が隠れた方と写っていない方は別写真をご覧ください(３～7 頁)

先亡者に黙祷

質疑応答

目次(第 220 号)　　ÍNDICE(n.220)

一、Fotos da Capa 表紙写真：2 月 26 日新年会が隊員１７名と夫人７人、日本の大学の研究員２名、新聞社編集長の参列で賑やかに開催されました。 1
一、 Índice　目次 2
一、２月２６日の新年会での写真、会食中の隊員たちと夫人たち ..3〜5、7
一、総会(そうかい)に遠方(えんぽう)から友来(ともきた)る。「ブラジル日報(にっぽう)」の記事(きじ)・写真(しゃしん)です 5
一、総会と新年会が開催されました。２０２２年業務報告
　２０２３年業務予定。新年会のもう２枚の写真　会長　渡辺進 ..6〜7
一、【会計報告】2022 年年間、1 月 2 月 サンパウロ ８期 長田譽歳 ..8〜9
一、健康で長生きする方法 ポルトガル 10 期 岡井義重 ..10〜11
一、自分史(38)よっちゃんの師匠 ポルトガル 10 期 岡井義重 ..12〜17
一、思い出 ジュンジアイ９期 荒木昭次郎..18〜19
一、新年会に出席して フォス・ド・イグアス 単独 齋藤信夫..20〜21
一、【絵画】ゴッホ　星月夜　Noite estrelada do Vincent van Gogh 21
一、忌々しい思い出 サンパウロ ８期 長田譽歳 ..22〜25
一、ルーラはまたもやブラジルを破綻させるのか ９期 貝田定夫 ..26〜29
一、ブラジルの悲惨な１０年間 サンパウロ ９期 貝田定夫 ..30〜31
一、移民ふるさと巡りに参加して サンパウロ ４期 曾我義成 ..32〜33
一、【転載】『ボクの人生は滝に縁がある』齋藤信夫さんの話
ブラジル日報 3 月 22 日号より ..34〜35
一、 想い出 広島 6 期 三戸伸晃 ..36〜39
一、【石碑】「南米産業開発青年隊の魂ここに凝固して学舎の礎を永遠に築く」建設大学校中央訓練所長 長澤亮太　日本 OB 会長 鈴木浩明.40〜41
一、【浮世絵】葛飾北斎「富嶽三十六景」の赤富士 42
一、 近況報告 日本 OB 福岡県太宰府市 光森徳雄 43
一、【読書】「一生ボケない脳をつくる７７の習慣」(2) ...44〜48
一、【名画】落穂拾い、夏 ジャン=フランソワ・ミレー ...49
一、【編集委員】【新電話番号】【次号予定、お願い】【編集後記】 ...50

【訂正とお詫び】前号の３１頁からの「私の思い出」は６期三戸伸晃氏の出稿でしたが、誤って目次にて、7 期佐竹宗之氏と記入してしまいましたので目次を三戸伸晃氏に訂正し、お詫び申し上げます。 ◆

２月２６日の新年会での写真（隊員は敬称略）

挨拶する１０期齋藤信夫

齋藤信夫とブラジル日報の深澤正雪編集長

深澤正雪編集長と９期荒木昭次郎夫妻

８期山木源吉と９期荒木昭次郎夫妻

８期小山徳と日本の大学院研究員の小谷真千代氏（神戸大学）と村中大樹氏（大阪大学）

小谷真千代氏と１期大島武平夫人ルイーザ・ヒロエ・岩佐・大島

会食・談笑中の隊員たちと夫人たち

◆

２月２６日の総会に関する「ブラジル日報」の記事・写真です

許可をいただいての掲載です

２０２３（令和五）年　３月　８日（水曜日）

南青協総会

遠方から友来る、賑やかに乾杯

役員は留任、ピラルクに舌鼓

南米産業開発青年隊協会（渡邉進会長）の２０２３年度定期総会が２月２６日午前、聖市の山形県人会館サロンで開催され、会員とその夫人ら２４人が出席した。

先没者の御霊に黙とうを捧げた後、渡邉会長が開会の辞をのべ、議長に鈴木源治氏、書記に志方進氏が選出された。

渡邉会長が２２年度事業報告として、毎月の定例会、２月の総会・新年会、６月のグアタパラ移住地慰霊祭参加、９月のイタペセリカ・ダ・セーラ市の円光寺境内での同隊員慰霊法要、忘年会などを説明。１１月には日本の産業開発青年隊７０周年式典が予定されており、伯国から数人が参加予定だという。

２３年度の会費は２００レアルで据え置き。２２年度決算報告は収入１万６９６５・３６レアル、支出１万７０７４・０６レアルで、前年度繰越金（２万６２００・７４レアル）を合わせた２万６０９２・０４レアルが次期に繰り越されることが発表、それぞれ承認された。

役員改選では会員らの「今の役員に続けてほしい」との要望から、渡邉氏が会長を、鈴木源治氏が副会長を、長田譽歳氏が会計を続投することが承認された。

２カ月に１度発行される会報の編集委員長には志方氏が就き、曾我義成、盆子原国彦、長田譽歳、小山徳ら４氏が編集委員となることも承認された。

１０年ぶりにパラナ州フォス・ド・イグアスから来聖した斉藤信夫氏は、同州の隊員の近況を「パンデミックになってから集会が止まってしまったが、マリンガに４人、ウムアラマに２人ほど元気でやっている」などと報告した。

最後に出席者全員で「産業開発青年隊歌」を歌い閉会。続けて新年会が催され、菊地義治さんが乾杯の音頭を取り、恒例のピラルクの刺身や持ち寄り品、弁当を囲んでの和やかな会となった。当日はブラジリアから吉田繁治氏なども参加した。

ここには参加した全員：隊員１７人と夫人７人が写っています　◆

２月２６日、総会と新年会を開催
2022 年事業報告と 2023 年業務予定　会長 渡辺進

出席者は５期 菊池義治、６期 鈴木源治・猪口光盛・斎藤重雄・温水昌介・盆小原国彦、７期吉田茂治、８期 早川量通・小山徳・長田誉歳・山木源吉・志方進、９期 荒木昭次郎・津田浦野介、１０期 佐藤勝・渡辺進、単独 齋藤信夫（以上隊員１７名）と夫人７名（大島ルイーザ、菊池敏江など）の合計２４名でした。（敬称略）

２０２３年総会新年会挨拶

皆様、新年あけましておめでとうございます。第１次の先輩方が１９５６年にサントス港についてから６７年になろうとしています。
今年も皆で、元気に楽しくやっていきましょう。

なおポルトガルの岡井さんから１０万円の寄付をいただきましたのでお知らせいたします。ほかの先輩がたからも多額の寄付をいただいております。本当にありがとうございます。

長田さんが岡井さんからの１０万円寄付のおしらせのメールに次のように書いてくれています。
「ニッケイコロニアの諸団体が、次々と解散消滅する中で、我々南青協は永遠に不滅です。」と、なんと力強い言葉でしょう。

剣道の教えで良く使われる言葉に、継続とは力なり、というのがあります。どんな習いごとも続けなければ物になりませんよ。ゆっくりでも続けていれば何とかなりますよ。ということですね。

我々青年隊も年をとって少しよたよたしても、多少ぼけても、健康に注意して今年も元気に活動を継続していきましょう。
皆様よろしくお願いします。

２０２２年業務報告

１）　２月２０日―総会、新年会総会。
２）　７月９日―ガタパラ移住地入植６０年祭参加。
３）　９月１８日―円光寺での慰霊祭。
４）　１２月１７日―忘年会。
５）　毎月の月例会
６）　２か月毎の南青協便り発行。

このような活動が行われました。南青協便りに写真付きで紹介されています。

２０２３年の業務予定

１）　新年会総会
２）　ガタパラ移住地入植６１周年参加。
３）　円光寺での慰霊祭。
４）　忘年会。
５）　南青協便りの発行。
６）　月例会
７）　１１月２５日の日本の青年隊７０周年記念大会出席。

【新年会のもう２枚の写真】

齋藤信夫夫妻と４期曾我義成

鈴木源治　菊池義治　曾我義成

◆

南青協年間会計報告 （2022 年） 2022 年 12 月 31 日迄

Descrição	Débito	Crédito	Saldo
Saldo 31/12/2021			26.200,74
JANEIRO	2.289,60	348,77	24.259,91
FEVEREIRO	1.504,50	4.793,60	27.549,01
MARÇO	2.049,65	5.957,88	31.457,24
ABRIL	120,00	1.580,13	32.917,37
MAIO	120,00	614,37	33.411,74
JUNHO	2.013,85	217,36	31.615,25
JULHO	3.012,20	1.608,73	30.211,78
AGOSTO	396,70	419,36	30.234,44
SETEMBRO	3.771,86	379,19	26.841,77
OUTUBRO	120,00	477,47	27.199,24
NOVEMBRO	120,00	377,36	27.456,60
DEZEMBRO	1.555,70	191,14	26.092,04
TOTAL	17.074,06	16.965,36	26.092,04

南青協月間会計報告（１月分） 2023 年 1 月 31 日迄

Data	Descrição	Débito	Crédito	Saldo
	2022 年 12 月よりの繰越分			26.092,04
11/Jan	Tarifa Bancario Extrato (3,35x3)	10,05		
21/Jan	山形県人会会館 Aluguel	120,00		
31/Jan	10 岡井吉重氏よりの寄付		3.311,23	
31/Jan	Iof Oper Cambio	12,58		
31/Jan	会報 219 号 Copia	768,00		
31/Jan	会報 219 号 Correio	634,75		
	Rendimento		185,36	
	Total	1.545,38	3.496,59	28.043,25

Bradesco の支店番号と口座番号 05/Fev /2023 Extrato Conta Corrente Takatoshi Osada Agência 1480 Conta 0033226-7 Disp.P / Poupança Saldo Total	28.043,25	Agência 1480 Conta 33226-7 Takatoshi Osada CPF 698.506.588-00 小切手(Cheque)の送り先 : Takatoshi Osada Rua Rishin Matsuda, 467 Vl. Sta. Catarina Jabaquara - SP CEP 04371-000

本年 1 月 31 日、10 期岡井吉重氏より R$3.331,23 の寄付を戴きました。

有難う御座いました。

南青協月間会計報告（２月分）

2023 年 2 月 28 日迄

Data	Descrição	Débito	Crédito	Saldo
	1 月よりの繰越分			28.043,25
18/Fev	年会費 1 次池辺治男氏(09)		200,00	
16/Fev	新年会食事用備品	52,84		
26/Fev	新年会用 bebida	94,46		
26/Fev	山形県人会サロン	400.00		
26/Fev	新年会食費	1.330,00		
26/Fev	年会費 4 期攝津静氏(85)		200,00	
26/Fev	年会費 4 期曽我義成氏(83)		200,00	
26/Fev	年会費 5 期菊地義治氏(89)		200,00	
26/Fev	年会費 6 期森慈美氏(103)		200,00	
26/Fev	年会費 6 期猪口光盛氏(115)		200,00	
26/Fev	年会費 6 期温水昌介氏(132)		200,00	
26/Fev	年会費 6 期盆子原国彦氏(143)		200,00	
26/Fev	年会費 7 期吉田茂治氏(160)		200,00	
26/Fev	年会費 7 期菊地敏江氏(203)		200,00	
26/Fev	年会費 8 期志方進氏(210)		200,00	
26/Fev	年会費 8 期早川量通氏(214)		200,00	
26/Fev	年会費 8 期山木源吉氏(238)		200,00	
26/Fev	年会費 8 期長田譽歳氏(237)		200,00	
26/Fev	年会費 9 期貝田定夫氏(259)		200,00	
26/Fev	年会費 9 期津田浦之助氏(267)		200,00	
26/Fev	年会費 10 期佐藤勝氏(286)		200,00	
26/Fev	寄付及び 年会費 10 期後齋藤信夫氏(305)		5.000,00	
26/Fev	年会費 10 期後渡辺進氏(309)		200,00	
	Rendimento		167,74	
	Total	1.877,30	8.767,74	34.933,69

Bradesco の支店番号と口座番号 06/ Mar /2023 Agência 1480 Conta 33226-7 Saldo Total	34.933,69	Agência 1480 Conta 33226-7 Takatoshi Osada CPF 698.506.588-00 小切手送り先は前頁にあります。

◆

健康で長生きする方法

ポルトガル 10 期 岡井よししげ

体温と健康

あなたが健康であるかどうかは、体温を計れば直ぐ分かります。

体温は生きて行く為の抵抗力（免疫力）と大変関係が有るからです。

体内の温度は３７.２度有りますが　直腸や舌下は３６.５～３６.７度で、腋の下は３６.２～３６.３度有ります。

動物のニワトリは４０度、コーモリは４１度、フラミンゴは４２度そしてスズメは４３度有ります。ニワトリは空を飛ぶことは出来ません。

それは体温が４１度以上ないと空を飛ぶことは出来ないのです。スズメの様に瞬間的に飛ぶ事が出来る鳥は、体温が４３度も有りとても高いのです。

ですからフラミンゴはスズメよりも体温が低いので、飛ぶためには水の上を走って体温を高めてからでないと飛べないのです。

飛ぶためには沢山のエネルギーが必要としますが、どうしてでしょうか？
それは地球の引力と深い関係が有るからです。

飛ぶためには引力に逆らうので物凄い力つまりエネルギーを必要とするのです。

そのエネルギーは体温の熱エネルギーから得ていますから、全て飛ぶ事が出来る鳥類は体温がとても高いのです。

私達は体の調子が悪くなれば、顔色に変化が出て動くのにもうっとうしく、つまりたいぎになります。

立って歩くということは引力に逆らって体重を支えて動くのでとてもエネルギーを必要としているのです。

ですから座った方が楽なのです、が座っていても体が弱いつまり抵抗力が無いので結構体を支えているのにもエネルギーを使うので疲れます。

それで最後には横になって動きたくなくなります。いわゆる病人です。

体温は一日の中である程度変化します。朝が低く時間と共に上昇していきます。ところが低血圧の人は３５度と低いので体内の生命活動が十分に行えず、起きる気力が出てこないのです。しかし時間と共に上昇するので活動が出来る様になるのです。

朝起きるのが辛い人は血圧が低いと言うより体温が低いせいだったのです。体温が低いと言う事は低血圧のせいばかりでは有りません、

色々な病気をしていて薬を飲んでいると言う事です。特に抗がん剤で治療している癌患者さんは特に体温が極端に低いのです。

ですから色々な病気で悩んでいる人は体温を上げる様に努めて、それを維持していく様にすれば病気が快方に向かう可能性が有るので、体温を上げる様に努めなければなりません。

ではどうしたら体温を上げて維持するにはどうしたら良いのでしょうか？薬を飲んでいる人は飲むのを止めれば一番良いのですが、そうはいかないですね。でも歳をとっている人は大抵高血圧とコレステロールの薬を飲んでいます。それを飲まないでその代わりに食後コップ三分の一の水に大さじ１～２杯のお酢を入れて飲むのです。１日２回又は朝昼晩の３回飲めば 99 歳まで生きるのにお役に立ちます。

また、食べ物は必ず地下で採れるものを率先して食べるようにしましょう。ネギ、玉ネギ、ニンニク、にんじん、ラッキョウ、ごぼう、れんこん、大根、かぶ、海藻類、ごま、乾燥果物類、栗や果樹類などです。

◆

自分史（３８）　　ポルトガル １０期　岡井よししげ

「よっちゃん」の師匠

人の歩む人生には必ず８０％は人から影響を受ける。その影響が吉と出るか凶と出るかは時間が経たなければ分からない。「よっちゃん」が中学校を卒業する時に担任の浅利先生（国語の先生）が贈ってくれたメッセージは「岡井ウジ（氏）よ、お前は努力の男だ、努力に努力を重ねて努力すれば必ずお前の道は拓けてくるぞ」というメッセージでした。

ブラジルに移住して20年後に日本に帰省した時に、あの先生はどうなっているかなーと中学校に電話をしたら、今は校長をしていて、「お前頃の仲間が結婚してその息子達がこの学校に来て面倒を見ているよ」と元気に話していました。結局は都合があって会う事が出来ませんでした。その後中風になって間も無く他界したと、風の便りで聞きました。でも電話で話した時に例のメッセージの言葉を話したらよく覚えていると言ってくれました。

「願う事は物質化する」 つまりあなたが願う事、希望する事、欲する事をいつも思っていればそれが物質化する、いわゆる実現するという事ですね。キリストも言っている「求めよ、さらば与えられん」 「叩けよ、さらば開かれん」とね。

それを実行してサンパウロから始まり、やがてブラジル全州にまたがり、そして海外はポルトガルを中心にしてスペイン、フランス、イタリア、イギリス、ギリシャへと布教活動を進めて行ったのが世界救世教の渡辺哲男先生でした。彼が「よっちゃん」の人生に多大な影響を与えてくれた人で一歳年下でしたが残念ながら６年前に他界しました。

「よっちゃん」が治療関係の仕事をサンパウロでしていた時に、友達３人でリオに視察に行って彼を知り合った事は既に語っていますね、まあ、それが縁で彼が私をリオに呼んでくれたのです。何かしれないけど「よっちゃん」をとても気に入ってくれて、彼の家の一部屋をあてがえて貰って住むことにしたのです。

まだサンパウロにいた時に彼はサンパウロの教会の本部に月並み祭（神道では月に一回神と先祖たちに感謝する祭こと）を施行するのでやってくる。そうすると「よっちゃん」は連絡を取りあってESTUDANTES街にある「おてもやん」という小さな飲み屋があって、そこで飲んで食べて色々と語ったものでした。

浄霊？　浄霊で病気が治る？　アハ〜、浄霊で病気が治るのであれば「よっちゃん」の指圧で簡単に治せるよ、と強がった事がありました。
ある時その飲み屋の「おてもやん」に常連客のサンパウロ新聞の伊藤記者？（名前は忘れました）が事故かなんかで右側の肋骨辺りが痛くてあまり腕が上がらないと、こぼしていました。 その時渡辺先生が「よっちゃん」に向かって「岡井さん、賭けをしようじゃないか？
この人を岡井さんの指圧で、一回で治ったら、私は貴方の弟子になろう。もし私の浄霊一回で治ったら岡井さんが私の弟子になるというのはどうかな？」と言ってきた。さすがの「よっちゃん」も考え、じっと悩んだね。たったの一回で治す？　さすがの私も「いや、これは無理だから、やらない！」と断った。

相手の必ず治してみせるという自信に圧倒されたというのが本音です。
こんな状態で何ヶ月か過ぎた頃、ある日「岡井さん、リオに来ないか？私の家にあなたが寝てもいい部屋があるからどうだい？」と言って来たので、すかさず「お世話になります」と言ってしまった。これがきっかけで「よっちゃん」の人生がガラリと変わっていくのです。

彼は何も私を彼の弟子にしようという考えは全然なく、岡井という人間がリオで生活したいから、リオで普通の生活が出来るようにお世話したいという純粋な気持ちで言って来たと思っています。

ある時、例の飲み屋の「おてもやん」でリオから渡辺さんと一緒に来た恰幅の良いブラジル人を紹介してもらった。リオ証券会社の重役でドット～ルとしてとても顔が広いのでもしリオで何か問題があったら、彼と相談したら良いと言ってくれた。彼は日本の武道に興味を持っていて、彼のマンションの屋上には８畳ぐらいのマットを敷いていてそこでドタバタ友達とやっていたらしい。

それで「よっちゃん」は八光流柔術の先生の資格を持っていたのでそれをドットールに言ったらとても興味を持って、「ぜひ私が１０人位の生徒を集めておくからぜひ指導して貰いたい。１ヶ月今のお金で、一人 100 ドルでどうかね？」と言って来たので、よろしくお願いしますと交渉が成立したのでひと安心でした。

サンパウロで同居していた稲垣氏とは借りているアパートが１２月一杯で契約が切れるのでそれを機会に思い切ってリオに行く理由にもなっていたのです。一緒にいればドンドンたかられているばかりで何だかんだと言って、６千ドルくらいは貸していたのです。このまま行けば、後どうなるか「よっちゃん」は人が良いからすぐ信用して引っ掛かるので別れることにした。

リオに着いた時、渡辺さんがフスキーニョに乗って迎えに来てくれました。あの日は暑かった。彼の家に行く前に有名なキリスト像のあるコルコバードに行きました。頂上までは確か 400 メートルの高さがあるらしく上に行けば行くほど涼しくなってきた。そして途中の景色が良いリオの街を見渡せる所で一服することになり、彼は言った。

「私の夢は何だか分かる？」と言って「よっちゃん」の顔をじっと見ているので、「今の家を取り除いてそこに教会を作るのは聞いていますが、そういう教会をこのリオの町に３箇所ぐらい作る事でしょう」と答えたら、なんと「いやいや、リオの各バイホに教会を作ってこの涼しい場所から全体の教会に司令を出すことだよ」と言って来たので「よっちゃん」は開いた口が閉じませんでした。（現在教会は３カ所で各バイホに浄霊センターがある）。

こりゃ！　この人間は物凄いホラ吹きだな～と思った。でもパラナの山にいた時、吉村先輩からブラジルではホラを吹けない人間は成功しないよ！と言われて来たので上には上がいるものだな～と感心し、色々と勉強させて貰った。兎も角、彼渡辺さんの目標は人類救世ですので言う事はでっかい事ばかりです。

「よっちゃん」は聞く方ばかりで心の底から何かしら湧き上がって来るのを禁じ得ません。余りにも精神というか霊的というか自分の魂が磨かれて、各自生まれて来たのには各自の使命感があり、それを気付いて実行する人間だけが多くの人に影響を与え素晴らしい人生を送ることが出来るのだ。

今の世の中が混沌しているのは今までのブッダの教え、マホメッドの教え、キリスト教その他の霊的な指導者たちを平均に横並びにして、ああでもない、こうでもない、ああしろ、こうしろとお互いに批判しあったり、比べたりしているのでまとまらない、そうでなく縦方向にすれば最初にブッダの教えがあり、次にマホメットの教えがあり、次にキリストの教えがある。

ですから各指導者たちはその時代時代に役割を果たして来ているのであって、今こそわが救世教が世界を救う担い手となっている。だからこそ今最も必要とする教えは救世教創立者の岡田茂吉いわゆる「盟主様の教え」に他ならない。という事です。素晴らしい事は最も自然食品つまり自然農法に力を入れている事で、他の宗教には有りませんね。

それに芸術活動です、山月流生花の創始者であり、絵画や焼き物、絵画といえば戦後ドンドン海外に二束三文で流出する物を出来るだけ阻止して買い求めたり、あの有名な尾形光琳を世に出した事で有名です。熱海にある世界救世教本部には東洋最大と言われる MOA 美術館があるのはそのせいです。

尾形光琳は、江戸時代中期に活躍する有名な画家である。京都の呉服商「雁金屋」の次男として生まれ、特に京都の富裕な町衆を客としていた、王朝時代の古典に影響され、明快で装飾的な作品を生んだ。

その特殊な意匠感覚は「光琳模様」という言葉を出し、現在に至るまで日本の絵画、工芸、意匠などにすこぶる与えた影響はすごい。
画風は大和絵風を基にして、晩年には水墨画の作品もある。

大画面の屏風は特に有名で下の『燕子花図屏風』（根津美術館所蔵）と 次ページの『紅白梅図屏風』（MOA 美術館所蔵）が最も素晴らしい。

さて、次に素晴らしいのは世界救世教の自然食品です。自然食品と BIO 食品はどう違うのか？「BIO ビオ」とは、農薬や化学肥料などをいっさい使用せず、100%有機の原材料によって生産された無添加オーガニックであるので、自然食品と同じことになる。しかし世間では農薬や化学肥料を少しだけ使ったのを BIO だと称して売っている食品がとても多いです。

ブラジルのサンパウロで救世教の自然食品を買うことができます、スーパーに行けば自然食品コーナーがあり、そこでコーリン（KORIN）のマークが有りこれは確かに農薬、化学肥料など一切使っていない政府公認のマークです。下はその例です。

続く ◆

思い出　　ジュンジアイ　９期 荒木昭次郎

今年の新年会で参加者の皆さんにお会いしまして、楽しく過ごす事が出来て、良い思い出となりました、有難うございました。今後もお会いできる事を楽しみにしています。

私は難聴とか腰痛など、それに喉の吸引力なども弱くなったように感じて過ごしていますので、そんな事で住んで居るジュンジアイ市からは家内康子の付き添いと、息子の運転の車に同乗して行きました。最近知ったのですが高齢者は一般に筋肉の減少が少しずつ起こる、サルコペニアと云われる現象のようで、筋肉が減少して身体の機能が低下する事で、老年者にはその現象に慣れる事が大切かと思います。やはり日常生活に支障を来す事になるので、毎日軽い運動に親しんで筋力の補強が必要のようです。

今回お会いした遠路のイグアスから夫婦で来られた斎藤さんは、日本の青年関東隊の同じ９期で一緒に過ごした方で、彼は何時も会報に写真付きの書き込みを続けられ、仕事の方も現役で続けられているようで毎度感心して拝見しています。イグアスの事で思い出した事があったので以下に書きます。

青年隊旧友に偶然に会った事がありました。

昨年の末に８５年になった私の人生で、ブラジル暮らしが６０年となりました。過去に一緒に関東隊の訓練所で過ごした仲間と日本で偶然に会った事がありましたので思い出を書いて見ます。

ブラジル移住十数年後でしたので、日本の父母の墓参と兄弟達に会い、その後に家内康子の親戚が住む岡山と四国を廻り、金毘羅さん参りと本場の讃岐うどんを試食しようと、家内と一緒に日本を訪れて歩き廻りました。

日本でブラジルの開発に憧れ、青年隊に入り、その訓練で１年間ほど過ごしましたが、その仲間の一人に確か千葉県から来られた増田（ますだ）君が居ました。彼は家族達のブラジル移住の了解が得られずに、訓練半ばでブラジル行きを断念した人でした。私は彼と良く話しが合って、ブラジルに行って一緒に仕事をしようと話し合っていた仲間でした。

家内と一緒に故郷の山形で数日過ごし、東京に戻り姉が住む深川で数日過ごし、それから弟の住む横浜に行くのに秋葉原駅で電車の乗り換えのためホームでうろうろしていました。しばらくして少し離れた所から私達をじっと見ている人がいるのに気がついて、近くまで行って良く見たら、思い出に残る青年隊で同窓だった、あの増田君でした。彼も先に気が着いて、ブラジルに行った「荒（あら）さん」がここに居る訳がないと思っていたそうで、私の呼び掛

けで夢から覚めたように驚いてびっくりし、それからいろいろと、あの当時一緒に過ごした事とか、今の仕事の事などについてお互いに現況など話し合った事でした。日本一乗客が多い駅のホームで、偶然に旧知の友人に会った事で同道の妻も大変喜んでくれました。

私がイタイプ―工事に働いて居た時ですが、時々パラグアイ側に行って、当時ブラジルには輸入されていなかった日本製のカメラとか、音響・サンスイのアンプなどの日本製部品とか、それにミニコンのアップルなどを買った事などありました。当時のブラジルでは輸入品は一切禁止の時代で税関を通れば100％の税金が加わる事で、バカゲタ値段の買い物になる時代だったのですが、小舟で河を渡りブラジル側に届けてくれる人を街路から呼んで紹介され、話し合いでブラジル側に届けてくれる蜜輸送人の利用でした。

パラグアイの日本人移住地は、ブラジルとの国境を越え、商店街を抜けるとすぐ近くから移住地が始まります。その地に移住された人の思い出にあるのは、やはり青年隊移住でパラグアイに移住した同期生でサントス丸の同船者だった近江忠彦（おうみただひこ）君（秋田県、n.２５８）です。

一緒に移住船で来た近江君もその移住地に居るはずなので、住所を探しましたが見当たらなかったので、次の日曜日に車で近江君を探しにその移住地に行ってみました。先に共同組合でも探して尋ね、住所を探して貰う積りで移住地の或る雑貨店前で止まって尋ねようとしたら、すぐ近くを歩いていた人が居たので、その人に尋ねようと車から降りて声を掛けたら、その人が振り向いたので、良く見たらあの近江君らしいので、びっくりして声を掛けました。近江君も見返りして驚き、荒さんですね、と云っていました。

私は河向こうのブラジルのイグアスに住んでダム工事に働いていると云って、それからいろいろ話し合った思い出があります。これも偶然に古い青年隊時代に過ごした仲間と会った懐かしい思い出での一つです。

◆

新年会に出席して

パラナ州 フォス・ド・イグアス　単独 齋藤信夫

　昨夜は良く眠れました、ぐっすりデス。
Toma Café をすませ、9 時半ごろチェックアウトもすませ、ホテルの前の通りに出ると、日曜の朝のせいか、通りを歩いている人達が昨日より大分少なく感じました。
　新年会の会場まで、ジイさんとバアさんが、荷物を下げてヒョコ、ヒョコ歩いていると、トロンバのいい鴨になるかなあ？と思いタクシーを頼もうか？とフロントのカウンターへ行ってみますと、後ろからわたしの名前を呼ばれましたので、振り返ってみますと、そこに小山の徳さんが立っているじゃないですか！「会場へ一緒に行こう」と言われた時は大げさで無く、まさに『地獄で仏」の声を聞いた感じでした。

　土産物のシーバスの Whisky のボトルを持ってもらい、私は自分の旅行用の小さなスーツケースだけで、身軽になれ大助かりでした、新年会の会場へ無事到着。中に入りますと、既に数人の人達がおり、やがてどやどやと、沢山の先輩達が集まってきました。

　そして、彼方此方で「やーやー元気かな？」「お前生きて居たのか？」等々の挨拶、その後は渡辺会長の、開会の挨拶で、ビールが開けられ、続いて酒にウィスキーなどで座は一気に陽気な新年会へとなる。
　老人とも思えぬ（失礼）元気さで詩吟を高吟、あるいはうなり、歌を唄い、踊りだす人も、と最高潮にと達する。

　私も昨年 12 月、80 歳となり高齢、さらには此処 3 年間のコロナ禍で、外で知人、友人達と楽しい酒を飲まなくなって久しく、何時も我が家で、一人酒、手酌酒、演歌を聞きながらの酒が多くなり、飲んでも不味く、ちっとも酔わない酒でした。
　今回は久し振りに、和気藹々、陽気で楽しい酒を飲む事が出来ました。
　新年会にお誘い頂いた曾我さん、渡辺会長はじめ、お集まりの先輩諸賢方々「本当にありがとうございました。皆様に元気を頂き、心が洗われました。」又何時の日か、このような楽しい集いが出来るといいなと思っております。

　次頁写真は我が家の庭のキツツキ(TUCANO) とサボテン(CACTO)の花です。撮影日は 2 月 3 日です。

◆

【絵画】ゴッホ 1888 年作　ローヌ川の星月夜

Noite Estrelada Sobre o Ródano é uma pintura de 1888 do pintor holandês Vincent van Gogh

◆

忌々しい思い出

サンパウロ ８期 長田譽歳

私が結婚したのが３０歳と６ヶ月、その前の年に借地農として独立して５アルケールの荒山を開墾して綿作を４アルケールと陸稲を１アルケール植付けました。４年借地契約の初年度の収穫量は天候に恵まれ、綿を１６８０アローバ（２５.２トン）、米を１６０俵でした。単位面積からの収穫量としたら超万作でした。

女房を迎えたのがその年の６月の下旬のサン・ジョンの聖日でした。
女房の家族は私の働く州境の農場より 65km 離れたバレンチン・ジェンチュウ市の郊外の農場に住んでいました。日本では 65km と言ったら結構遠いけどサンパウロ州奥地では二つ隣の町です。
結婚して１ヶ月後、日系人の習慣としては少し遠い場所に嫁に行くと里帰りの習慣が有ると女房から言われました。

1ヶ月してそれでは行こうと言って二晩泊で出掛けました。7月8月は乾季で仕事も余り無くゆっくりしたもので、魚釣りに良く行っていました。女房の兄弟に今、魚が釣れているので来ないかと誘いました。
女房の上の兄がそれなら今度の土曜日にトラックで行って、トラックの荷台にテントを張って泊り掛けで行くと言われました。

この州境の大河はあの当時殆ど 1 年中赤茶けた黄色の水でしたがこの乾季の終わり頃のみ青く澄んだ奇麗な水になります。州境の大河は水面の幅が 2.000 メートル程あり両側の堤防は無く、河から 200 メートルは州政府の所有権であり、買った人の所有では有りません。この大河は乾季の今の時期が標準水位で雨季の時期には乾季の 2 倍にも 3 倍にも成ります。

この大河には 1960 年代の終わりには上流から下流にまで一つの水力発電所も有りませんでした。私達が綿作りをした後に 80 キロメートル下流に膨大な水力発電所が建設され、長さ 200 キロメートルの膨大な湖が出来ました。その後その河の上流に幾つもの水力発電ダムが出来たので、雨季の豪雨の時でも今は川の水が青く澄んだ水に成りました。

私が住んでいた家より 500 メートル離れた下に私の魚の釣り場が有りました。その 500 メートルはまだ原始林の様な荒山ですが、冬場の牧草が枯れた時は牛をその山林の中に放牧すると、牛は木の葉を好んで食べました。

ですから牛の水飲み場用に河まで道が開けて有りました。
　土曜日に女房の兄弟が来る、前の日の金曜日に一日魚釣りをして、翌日の為の十分なこませのトウモロコシを何回も何回も投げました。
その日の魚釣りも順調で大きな魚籠に 20 匹ほどの魚を生かして川に沈めて置きました。翌日の朝食の味噌汁に使う為でした。
　翌日の農場内の州道のミナス州方面への分かれ道まで女房の兄弟を迎えにトラクターで行きました。来たのは女房の 2 人の兄と一人の弟に他に、女房の従兄弟が 2 人でした。その人達にそれぞれ釣り場を配置して、女房のすぐ下の弟を私の釣り場に座らせ要領を教える。

　朝の一番が肝心なので注意して教える。第一投を投げるとすぐ竿の先が水中にグウーと入る。竿を上げろ上げろと言うけど、容易に竿の先が水面から離れない。ようやっと竿の先を上げるが、魚は沖の方にぐいぐいと引く、奮闘 3 分で、ようやっとばたばたする 800 グラム程の奇麗なピヤパーラを取り上げる。私がでかしたと言うと弟も大喜びする。

　その後、魚釣りはパウロに任せ私は味噌汁用の昨日釣った魚籠の中の魚を捌く、その昨日釣った魚が数匹死んでいたので、頭だけ切って鍋に入れ身のほうを河に投げる。すると彼は何で身の方を投げるのか理解出来ない。私が死んでいて味噌汁が匂うといけないという。それでも彼は理解出来ないようでした。
　そのたくさんの頭が入った味噌汁は絶品でした。他の生きている魚はさばいて塩にまぶして開き、天日に干しました。弟のパウロは今も頭を鍋に入れて身を捨てた話をします。

　あの頃は日系人二世青年と我々戦後移住者の間では若干の考え方の違いが有りました。その夜はトラックの荷台に大型テントをグルリと巻き、一人は運転席に眠り、他の人は荷台のテントの中で眠りました。あの頃は 7 月下旬には霜が降る事がありました。
　あの当時のサンパウロ州奥地は 6 月 7 月 8 月の乾季は毎日毎日晴天で雨は降りませんでした。その土曜日の夜は従兄弟が大きな魚捕りの流し網を持ってきて、仕掛けました。

　翌朝、仕掛けた網を上から見ると何匹かの魚が網に掛かっていて、ひらひら泳いでいるのが見えました。掛かった魚の殆どがクリンバでサシミにしたら川魚では最高です。網を上げてゆくと次から次へと沢山のクリンバが掛かっていました。最後の方に行くと網が沈んでいて上がらない。

どうも水に沈んだ木の枝に網が掛かったようだ、網を破っても引き上げようと力任せに引き上げる。何か白い物が水中に見える。さらに力任せに引き上げると丸太のような蛇が網に絡まって現れる。

皆驚いて手を離すと又ゆっくりと沈んでゆく。どうもそのスクリは死んでいる様だと言い又引き上げに掛かる。水面に浮かんだスクリは死んでいました。網に掛かった魚を食べる為に魚に突進したけど網の目に頭を差し込んでしまいました。暴れ狂う内に尻尾も網に差し込んでしまいました。そして水中に沈んでいる枝に絡みつき酸素呼吸が出来なくなり死んでしまいました。

翌朝、私が朝のコーヒーを持って行くと此れを見てくれと言って長いながい丸太の大蛇を見せる。長さを足幅で測ると 4 メートルに少し足らない、まず3メートル80センチメートル。この太さなら人間でも飲み込むのではないかと私が言うと、多分と彼らは言われる。
そして女房の従兄弟は蛇の腹を開いて腸に付着した脂肪を切り取り、袋に入れる。私が其れを何にするかと聞くと、彼はランプの油に使うといわれる。少し太めの芯を使うとジュジュと音を立てて凄く明るいと言われる。
彼は 5 キロほどの脂肪を取って、これでしばらくは、夜は明るくなるといわれる。

その後で 6 人で大蛇の首にロープを巻き河に引っ張って水面に浮かべ、ゆっくり押すと静かに生きているが如くゆっくり川下に向かって下ってゆきました。これが大蛇の水葬だと 6 人で静かに見送りました。
今まで私は釣りに来て暑い日は裸になって私の釣り場を２～３回グルグルと泳ぎましたがその後は１度として泳がなくなりました。
水中であんな大蛇に巻き付かれたら、あっという間にお陀物です。

その借地農 2 年目は１０アルケール増やして１５アルケール（３６ヘクタール）として元気良く働き出しました。
その年の綿の出来ぐあいは可も無く不可も無い普通の出来でしたが、値段が出なかったので農地も増やさず借地３年目も綿を植えつけました。
この３年目の綿作が問題でした。植え付けから順調に生育し、綿の花が奇麗に咲き揃いました。綿栽培者は皆、今年は十分な収穫が得られると微笑みました。順調な生育は綿の花が咲き揃うまでした。

沢山の綿の実が付きましたが、雨が少ない為何となく綿の木に元気が無く、日中は萎れている。綿の実も沢山付いたけど実が小振りで力が無い。

その内に綿の木の葉が赤くなり、酷いのは倒れるのも有る。その事を農薬屋に話すと、綿の木の根元に入る（ブロッカ）で農薬では駆除できないと言われる。その被害がサンパウロ州ほぼ全粋で処置無しだと言われる、収穫期になると小さいながらも奇麗に綿が開き収穫期になると小さいながらも収穫するけど殆どの農家の収穫量は例年の２割から３割程度で多くの農家の経営が行き詰まり破綻する。

私達の借地契約はもう１年残っているのでブラジル銀行の借り入れで何とか継続する。最後の綿作りに全てを賭ける。
その最後の植え付けは、雨も早い時期から来て整地は順調で、蒔き付けも全て良く、綿も奇麗に育つ。皆喜んだのは花の咲く頃までで、綿の木はズルズル伸びて枝から枝が出来て木だけが伸びて、綿の花が咲かず実も付かないし、綿畑の中に入る事もできない。

正月が過ぎ２月に入っても綿の実は枝の先端に申し訳程度に付くのみで誰もが今年は作年より悪いと思う。その年の収穫は過去４年間で最悪でした。同じ広い農場内で借地して綿作りをして居た日本人はその全てを失う。
その６人の中で私は比較的軽くトラクター一式をブラジル銀行の負債に当てて澄みました。ですが他の人もブラジル銀行の保証人が全てを被ってくれたので何の束縛もありませんでした。

全ての財産を吐き出したのでサンパウロには身一で来ました。
持って来られた金は２０俵の米と大小の豚２０頭を売った金でした。
それでも女房と１歳半の女の子があったので何とか活路を見出さなければとサンパウロに出て来ました。

つづく

◆

ルーラはまたもやブラジルを破綻させるのか

サンパウロ　９期　貝田定夫

ルーラ政権が始動して間もないが、早くもその先行きが不安視されている。なんとなれば、ブラジルとアルゼンチンとの合意事項はブラジルの国益に反し発展を阻害すると見られている。

ルーラが最初の外国訪問に選んだのが隣国のアルゼンチンで、1 月 23 日、フェルナンデス大統領との会談で次の 3 点について合意した。始めに、ブラジルとアルゼンチンで共通の通貨をつくる。次に、ブラジルの経済社会開発銀行(以下 BENDES とする)による国外投資を再開し、諸外国の建設事業を活性化させる。さらに、キューバ、ベネズエラ両国との関係改善をはかる、としている。

ブラジルとアルゼンチンで共通の通貨を作ることについて、ブラジルの財務省は「現行のブラジルレアルとアルゼンチンペソを廃止するのではなく、貿易などの商取引にのみ使用される通貨の導入を検討する」と説明している。

まずは相手国のアルゼンチンとはどんな国なのか、から説明したい。アルゼンチンは政治・経済が不安定な国である。特に経済が脆弱で外貨不足やインフレを繰り返してきた。インフレ率にしても 2 桁以上になったことが多く、最高で 5000％ものインフレを記録している。そして大幅な通貨切り下げを繰り返してきた。アルゼンチンはこれまで 8 回もの債務不履行をしている。

現在でもアルゼンチンでは外貨が不足し、国際通貨基金(IMF)に大量の借金を抱えている。中央銀行は大統領令によって紙幣を刷っているので高いインフレを招き、2022 年の年間インフレは 95％に達し、今年 2 月には 12 ヵ月累計で 103％になっている。またもや債務不履行に陥る可能性がある。

これに対してブラジルは十分な外貨を持っており貿易の決済に支障はない。中央銀行は政府から独立しており、インフレも年間 5％前後にコントロ

ールされている。大統領令で紙幣を刷っているアルゼンチンとは雲泥の差。アルゼンチンとの共通の通貨などあり得ない。ちなみに、ヴァルガス財団経済研究所のエコノミストによれば、共通の通貨についての検討は「時間の無駄」とバッサリ切り捨てている。

BENDES による「国外投資を再開する」ことで合意しているが、そもそも BENDES 本来の目的はブラジル国内の経済・社会発展のために長期の融資をすることである。従って外国での建設事業に BENDES が融資することは明らかな間違い。国内の鉄道、空港、港湾、発電所、学校、工場などの建設に向けられるべきものである。

ルーラ前政権時代、ブラジルの大手建設会社が BENDES からの融資を利用して中南米諸国で建設事業を行っていたのだが、秘密事項にされていた。このため当事者以外には全く知られることはなかった。しかしながら、2014 年頃になって検察庁が BENDES の運営に疑問を持ち始めた。何故なら 2006 年頃、政府から BENDES への資金供給は 100 億レアル位だったのが、2014 年には 44 倍の 4400 億レアルに達していた。この急激な巨大化に疑問を持った検察庁は BENDES に情報公開を要請した。

数ヵ月後、裁判所の命令に渋々応じた BENDES は海外の建設事業に関するリストを公開した。ブラジルの大手建設会社が、キューバ、エクアドル、ペルー、パナマ、ベネズエラ、ボリビア、ニカラグアなどで、BENDES からの融資を利用して建設事業を行ったことが明らかになった。例えば、キューバのマリエル港建設、ベネズエラの首都カラカスの地下鉄工事などである。しかし、契約の内容は明らかにされず、返済金額、返済方法、その他の条件など一切不明である。このため個別の契約金額を知ることは出来ないが、政府からの資金が 4400 億レアルに達していたことから判断して、全体として莫大な金額が投入されていたことがわかる。

BENDES は 100%政府出資の銀行でその財源は税金である。国民の血税がキューバの港湾建設やベネズエラの地下鉄工事に使われたことになる。ルーラ政権及びジウマ政権は長年にわたって極秘事項にしていた。

上記の中南米諸国での建設事業はその後どうなったのか。BENDES によると 2022 年 12 月の時点で、キューバの 2 億 4000 万ドル、ベネズエラの 6 億 8000 万ドル、モザンビークの 1 億 2000 万ドルが期限通り返済されていない。合計 10 億 4000 万ドルが「借金の踏み倒し」と見なされ、その穴埋めに国庫から BENDES へ 10 億 4000 万ドル相当分の資金が提供された。何のことはない、借金の穴埋めにまで国民の血税が使われたのである。

「借金の踏み倒し」について問われたルーラは「彼らが払わないのはボウソナーロが催促しないから、我々が(政府に)戻ったからには彼らは払うよ」と、全く無責任で卑怯な発言である。

結局、BENDES による中南米諸国への国外投資は国庫に大損害を与えた。ルーラはまた繰り返すつもりなのだろうか。

最後に「キューバ、ベネズエラとの関係改善をはかる」について述べたい。キューバは共産党による一党独裁の国で大統領選挙も議員選挙もない。政府に批判的な学者や活動家は逮捕されるなどの圧政が続いている。アメリカからはテロ支援国家に指定されている。

経済面で見ると、サトウキビ栽培を中心の農業国であり、輸出の半分以上が砂糖である。他に目ぼしい産業はなく，街には 30～40 年前の古いポンコツ車が走っている。そして、一部の特権階級だけがいい生活をして、国民の大部分が貧困に苦しんでいる。こんな国と仲良くしようということであるが害はあっても益はない。

ベネズエラはチャベスの死後マドゥロが継承し、実質的な独裁体制が続いている。マドゥロ政権は最高裁を自身の影響下におき、国会で可決した法律を最高裁に違憲とさせるなどの無法状態にある。そして軍と警察は政府を支持し反対派を徹底的に弾圧している。

こうした政治の混乱に経済の失敗が重なり、ベネズエラ社会は危機的な状態に陥る。食べる物がない、薬もない、普通に暮らしてきた市民がゴミ箱をかきまわして食べ物を探す痛ましい姿が見られた。

2015 年頃から祖国を捨てて国外に逃れる市民が増え、その行先はコロンビア、ペルー、エクアドル、ブラジル、チリなどの南米諸国になっている。国連は、これら難民の総計は約 400 万人と見ている。これだけの大問題を引き起こしながら、当のベネズエラは難民の存在を認めず、頭を抱える南米諸国になんら協力せず挨拶の一言もない。こんな国との関係改善などあってはならない。

ウクライナ戦争は世界の政治・経済を大きく変えている。この複雑な情勢の中で自国にとっての最善策は何なのか、難しい選択を迫られている。欧米側につくか、またはロシア・中国側か、それとも中立を守るのか、戦略を考えねばならない。こんな中で注目に値するのがインドで、アメリカ、ロシア、中国などと絶妙なバランスをとりながら、したたかな外交を展開している。

ルーラは中南米諸国との外交を最重要視しているが、これらの国々は独裁国家や社会主義国家で経済規模も小さく、重要性のない国々である。小事に関わっている場合ではない。ルーラは世界を見て大局的な観点から戦略を練るべきで、少しはインドのモディ首相を見習ってもらいたい。

ついでに言うならば、BRICS(有力新興国)を構成する、ブラジル、ロシア、インド、中国の中で存在感の全くないのがブラジルである。国を発展させる優れた指導者の出現が待ち望まれる。

◆

ブラジルの悲惨な１０年間

サンパウロ ９期 貝田定夫

イギリスのエコノミスト誌(2021 年 6 月 5 日号)に「ブラジルの悲惨な 10 年間」という題名の記事がある。その前文は「病院は患者であふれ、ファベーラと呼ばれるスラム街には銃声が鳴り響き、失業率は 14,7%という記録的な水準に達している。信じがたいことに、今日のブラジル経済の規模は 2011 年のそれより小さい。ブラジルの凋落は衝撃的なほど速かった」となっている。

この 10 年間は、ジウマ政権の 5 年半、テメルの 2 年半、ボウソナーロの 2 年で、特にジウマ政権時代に政治が大混乱し、経済は坂道を転がるごとく悪化した。2016 年にはジウマに対する弾劾裁判があり、彼女は大統領を罷免された。2015 年の成長率はマイナス 3,5%、2016 年もマイナス 3,3%で、2 年連続のマイナス成長はこれまでのブラジルの歴史になかったことである。政治的にも経済的にも最悪の時代だったと言える。

エコノミスト誌は、前述の前文に引き続き「悲惨な 10 年間」は何故起きたのかについて述べている。次にエコノミスト誌の本文を転載する。

代々の政権が 3 つの過ちを犯した。

第 1 に、目先の利益にとらわれる短期主義に屈し、自由主義的な経済改革を先送りした。この失敗の責任は主に、2003～2016 年に政権を担った左派の労働党にある。労働党政権は、年率 4%の経済成長を達成していたものの、生産性を向上させる投資を行わなかった。そのため、コモディティー価格が下落すると、過去最悪の部類に入る景気後退に陥った。

テメル政権とボウソナーロ政権は改革をある程度前進させたが、必要なレベルにはほど遠かった。

第 2 に、ラバジャットと呼ばれる大規模な汚職摘発捜査の火の粉から我が身を守ろうとした政治家達は、汚職の抑制に役立つ改革に抵抗した。これについては、ラバジャットを推進した検察官や判事達にも責任がある。彼らの中に政治的な思惑を持った人がいることが露見すると、捜査が議会や裁判所で停滞してしまった。

最後に、ブラジルの政治制度が重荷になっている。

州規模の選挙区で、連邦議会に政党が 30 も乱立していることから、選挙にカネがかかる。

実行する価値がある長期的な改革よりも、票が取れる派手なプロジェクトを支持する政治家が多いのは世の常だが、ブラジルでは特にその傾向が強い。

一度公職に就くと、自分を当選させてくれた欠陥のあるルールにしがみつく。政治家は訴追が難しくなる法的特権を享受し、権力を維持するのに役立つ大金を手に入れる。その結果、ブラジル国民は政治家をさげすんでいる。2018 年に行われた世論調査では、連邦議員を信頼しているという回答は全体の 3%にすぎなかった。以上、エコノミスト誌から転載した。

注:「2003～2016 年に政権を担った左派の労働党」とはルーラ政権とジウマ政権のこと。

◆

「移民のふるさと巡り」に参加して　サンパウロ４期 曾我義成

3 月 16 日～3 月 20 日、南伯への 53 回移民ふるさと巡りに参加して来ました。参加した理由はイボチ移住地訪問のプログラムが有ったからです。

イボチ植民地は皆さんもご存知のように数名の青年隊員が入植したところです。現在青年隊員出身では鈴木貞夫氏（7 期―188）が初期から入植され定住されておられるだけです。

他の隊員の皆さんは親父が亡くなられてからは土地を賃借してポルト・アレグレ市やサンパウロ市へ移転されたようです。

イボチ植民地歴史の詳細については、数日のうちに鈴木さんが送って来ると思いますので、差し当たり 5 枚の記念の写真を送ります。

左より曽我、鈴木氏、谷口県連副会長、八重子

鈴木ご夫妻、曽我夫妻

曽我夫妻、イボチ日伯協会会長、田中氏、鈴木氏

イボチ移住資料館

ふるさと巡り参加者一同 ◆

【転載】『ボクの人生は滝に縁がある』齋藤信夫さんの話

ブラジル日報 3 月 22 日号より

華厳、ヨセミテ、イグアスと「ボクの人生は滝に縁があるんだよね」
世界最大の滝があるパラナ州フォス・ド・イグアス市でイグアス旅行社を経営する齋藤信夫さん(80 歳、栃木県出身)を取材すると、そんな印象的な言葉を述べた。2 月 26 日に開催された南米産業開発青年隊協会(渡辺進会長)の定期総会におけるパラナ州からの唯一の参加者で、来聖 10 年ぶり。青年隊 9 期生として日本で研修を受けたが、その後米国カリフォルニア州で 2 年を過ごし、それから(10 期以降生として)1965 年に渡伯した。

青年隊は日本で土木建築技術を習ってくるので、当地でもその関係の技術者になる人が多い。だが齋藤さんの場合, 渡伯時にはウムラマ実習場がなくなっており、いきなりパラナ州グァイーラで薄荷作りを始めたと言う変り種だ。3 年目にサビ病が入り、次の移転先を探し始めた。

グァイーラには当時セッチ・ケーダスと言う有名な滝があり、後に下流にダムが出来て水没した。齋藤さんの出身地には有名な華厳の滝が有り、米国時代には近くにヨセミテの滝が有ったことから 『滝に縁がある』と思い次の移転先は同じ州内のイグアスの滝があるフォスにしたと言う。

齋藤さんは移転後五つ星のホテル・ダス・カタラッタスのフロントマンなどを経て、ツアーガイドやコーヂネータ業を始めた。そんな 1985 年頃、有名ジャナリスト立花隆を案内したことも。

映画『ミッション』配給会社が日本人にはなじみのない歴史なので有名人を現地に招待して解説してもらった方が良いとの趣旨から立花隆を招聘し、齋藤さんがゆかりの地を案内したという。

同映画は 18 世紀のパラナ河上流域で先住民グアラニー族へのキリスト教布教をするイエズス会宣教師達の葛藤を描いたもの。齋藤さんはその時の思い出を青年隊機関誌 211 号に寄稿した。其処ではサンミゲル教会遺跡の休憩所

での立花隆氏との会話が描写されている(2 人のブラジル人の女の子が入って来てアイスクリームをなめ始めました。それを立花氏が見て、指差しながら
『齋藤さん、あの子のなめ方ちょっとエロチックじゃない』
と言ってきて、齋藤さんと 2 人で大笑いしたとのこと。

齋藤さんは「日本の知の巨人と言えども人の子ですね」と書く。そして、「立花隆さんは凄く熱心に三カ国にまたがるインヂオ教化部落を詳細に取材していたと」言われる。「その後に来た村上龍さんはどちらかと言うえばドラード釣りの方が中心で教化部落取材の方は付け足しのような感じでしたかね」と思い出す。齋藤さんは 1990 年にイグアス旅行社(電話 45・3574・4983)を創業、2009 年には自前のホテルも開業した。

コロナ前には日本からイグアスの滝観光に毎年平均 7 千人の観光客が来ていた。一番多かったのは 2013 年の 1 万 5 千人かなと振り返る。パンデミック以降はゼロだよ、と残念そうな表情を浮かべた。
世界からの観光客は確実に復活兆しを見せている。日本からも近い内に元通りになるかもしれない。

◆

想い出

広島県　６期　　三戸伸晃

１９６１年、南米ブラジル・パラナ州・ウマラマ市郊外からサンパウロ州リベイロン・プレット市近郊のガタパラ移住地造成工事に我々六期生５名がＪＡＭＩＣ（ジャミック）の補助技師として採用されて、「グアタパラ移住者用地」造成工事施工のために日本の７県から来た、土木課員（係長・課長）の助手として、各工事区域の土木工事・測量などを行った。

土木課員とは佐賀・山口・島根・岡山・山形・長野・茨城の７県からの派遣技術者で、各県は県内の「ブラジル移住希望者」を募り、それぞれ一家族25町歩を分譲（内訳・水田４町歩・果樹園10町歩・雑作地１０町歩・宅地1町歩）、夫々低地・傾斜地・宅地を分譲して「農業又は養鶏場・畑地の合計２町歩」を各県毎に「分譲」其の土地代金を１戸当たり５０万円で売り出した。

ＪＡＭＩＣは其々土地の分割測量・造成工事を日本政府・農林省・外務省の予算で賄い、そこの土地区分・低地開発、用水路・排水路そのポンプ・揚水工事を管理監督する。

半官半民で其れ等の工事を完成するまで行う。土地は低地（水田・用）を囲む約10㎞の土手を地上4mの高さに盛り上げて「堤防化」する。低地内の区画は排水路で水を抜く。

工事が本格化するまでに低地の分筆（4町歩）に網の目の如く幅3mの道路を開く。大型ポンプ用排水機は日本から直接現地まで「送付」、半官半民とは言え日本国農林省からの「予算」で行う工事費は、米ドルでブラジル銀行に送られて、ブラジル民間の土木会社に毎月出来高が支払われる。

これは実に面倒な「支払い」方法である。何故なら当時のブラジルの貨幣はクルゼイロであったから、日に日に上下するアメリカドルとクルゼイロの換金で、経理を担当する計理士は実に頭を悩ます計算に苦労をしていた。

工事が始まって一年後、日本から二人の「会計士」が現場にやって来て、工事完成度の監査を「行う！」と何やら面倒な「検査」を始める。しかし、工事途中なので彼等は何を監査すれば良いのやら？　ＪＡＭＩＣの所長は「知らぬ存ぜぬ」と言って、忙し気に逃げ回った。当時、ワシは偶々工事事務所でアレコレ駆け回って居たから、所長曰く「お前、この人たちを車で案内しなさい！」と「会計監査員」の案内を押し付けた。

会計監査員たちはワシ等青年隊員相手に「何処でも良いから連れて行って下さい！」と言ったので、ワシはその二人を乗せてリベイロン・プレット市に（60㎞）行き、シュラスカリアを案内した。彼等はワシを相手にして、工

事のアレコレを「問う？」けれど、ワシはあくまで「青年隊員」で何を聞かれてもサッパリ「判りません！」で押し通す。美味い焼肉を「どうぞ！」と言えば会話は一切「ナシ！」でワシも久しぶりに腹いっぱい肉をモリモリ食べた。其の夜、ワシ等の遊ぶ「マージャン」に誘ったら、「ＯＫ！」だと。役人と言えども遊ぶことは大好きらしかった。

ブラジルから帰国して数か月後、「海洋土木」の会社に入り、それ迄の諸々の土木屋「山賊」から脚を洗い、今度は「海賊？」に変心することとなった。たまたまその頃から瀬戸内海沿岸部の新規埋め立て工事が広島湾内でも「急遽」始まった。

広島湾内では廿日市・五日市・大竹市・広島市沖・海田市埋め立て、坂町沖埋め立て、呉市天応埋め立て、マツダ本社工場埋め立てなど大小 10 か所以上の大型埋め立て工事が発注されて、海洋工事建設の大手～中手の施工業者たちはまさに大騒ぎの状況になった。

それぞれの業者はよく判らないままに？　工事用船舶を造船して諸々の大手・中手・土建業の受給工事を下請けするべく船員を募集し始めた。ところが素人が考えるほど、海洋工事は「単純ではナイ」。幸いワシの場合、帰国して早々に「山賊」から「海賊」になっていたから、海洋土木に要する作業員・船員たちとは顔見知りが多く居た。

帰国三年目には海洋工事が得意な社長の会社で現場監督的な仕事を、あちこちの海岸線を改修・保全した甲斐があり、同年配の土木屋と気が合い、その男と彼の弟・兄が三人で始めた「有限会社」に誘われて、その有限会社に席を移した。

その有限会社所有の「起重機船」（１００トン吊）の海上工事をワシが営業してアチコチの現場を駆け巡る。日々その船を使用する現場を見つけ出して単純作業を　短時間でこなせば、結構な売り上げが上がる。

気分を良くした社長は早速に 200 トン吊の起重機船を造ると言うが、一寸待った！　其れより先に小回りが利く小型クレーン船を作らせよう！

社長が在住の島（江田島）には「潜水士」が多数居て、彼等に夫々「小型クレーン船」を作らせれば良い。

広島市内の河川沿岸工事なら、多くの工事量にもなる。早速に潜水士たちを集めて、１～2 トン吊の小型潜水船を造らせる。工事はワシら営業で各土建業者を尋ね歩き、夫々に応じた「潜水作業」を請け負わせる。

会社組織を変えて、株式会社として営業して、広島市内で埋目立て工事現場を廻り、クレーン船作業に要する 30 トン吊クレーン船、50 トン吊・150 トン吊・250 トン吊と自家用船も年々と増えて行く。

クレーン作業のみならず、海底掘削作業も始めて、掘削に間に合う大型掘削船の造船を計画して中国の「海南島」の造船会社に依頼して、社長は数回造船所を尋ねて下見に行く。
社長は「どうも中国の造船所での溶接工事は安心できん！」と愚痴をこぼす。
造船終了時には、海南島から中国の引きボートで１週間かけて江田島まで「回航」して来た。早速乗船してあちこちのコーナー部の「溶接」を見ても、別段に「不満・不安」も見当たらず、「ヨシ！」となった。

その頃、深田サルベージＫＫからの依頼で台湾の台中沖の台湾電力工事に「行かないか？」と問い合わせが来て現場を見に行く。
当時、台湾訪問は実に簡単に航空便が取れて、大阪空港から２時間で「台北国際空港」に行けた。航空機なら目と鼻？の距離、台北からは台湾新幹線にて１時間で台中に行けた。
早速、台中沖まで行くと風が強くて現場まで観に行けなかった。台中電力の関係者には会えたけど、台湾語で話されてもチンプンカンプン。作業は台中の海岸淵から約２㎞主膵管を設置する海底の掘削である。
フーン？？？　此のフオルモッサ海溝の海流や如何に？と問えば、監督官曰く「海流は常に北に流れる」云々。でもって風の吹く方向は如何に？　の問い掛けに、「潮流と同じだ（南から北へ）」らしい。

次に避難港は？　の問い掛けには「台中港だ！」と　素っ気なく答える。
話を持ってきた「深田サルベージ」の担当者とアレコレ話すも埒が明かんから、帰国して会社内で「決めよう！」と腰を上げ、台北空港から一番早い「航空機」で帰国。
中国で造ったプリマン（掘削船）の初仕事につき、船長を交えてアレコレ話す。
社長は「行けよ！」と船長に押し付けるけど、ワシ個人的には、もっと現地を観てから「考慮」せよ！
アレコレ思案したが、結局「行けよ！」と話がついて。１週間後に出発が決まった。

１週間後、大型曳航船に惹かれて「江田島」を出発した。ワシは深田サルベージの担当者との協議で我が社の「船団」（８立法ｍバケット）のプリストマンと土砂運搬船（１０００ｍ３）二隻。
タイワン電力側は掘削度量２万立法メートルで計算しなさい！との要望だが、私は斯様な計算式では受けられないから、船団の作業効率の良い海洋を考慮して、作業開始時から終了するまでの船団全体の借船料（月当り２００

０万円）を提示した。2月中旬に出港して、台中港に到着したのが2月２４日で、会社からは2名の技術者を派遣した。

　プリストマン船には船員10名（内独り細君）。現場に到着した日にワシも現場着して、いよいよ掘削開始となる予定が、潮の流れが速くて、プリストマンが中々4点投錨出来ない。
　そこで船長判断で、台中港へ避難した。それから1週間は潮流が強くて、プリストマン船が現場に着けなかった。

　4月の中間頃に、台中に行くも相変わらずの状況で、殆ど浚渫作業は進捗ナシである。その日、台中の会計士が言うに、台北市に居るX氏がワシに逢いたいので、「中国飯店で食事でも！」と言うので、その店に入った。そのX氏の案内で地下レストランに入ったら、その席にはナニヤラややこし気な台湾ヤクザ風の男三人が居た。ワシは1人で行くのが嫌で、深田サルベージの担当者と同行していたけど、何やら雰囲気が怪しい。
　ワシ等を引率して来た台中の「会計士」は知らぬ間に何処かへ消えている。
　そのヤヤコシイ男は何やら笑顔ニコニコでワシ等を紹介する。
　「アララララ？　嵌められたな！」と深田サルベージの男子に小声で云うと、ウン・ソウダネ。相手の男らの中の兄貴分らしき「オヤジ」が「ミトさん！」となれなれしく云って、ナニを言いだすかと思えば、「台中にあるプリストマンと船団一式を売って呉れ！」という。
　魂消たワシは「ナニを言いだすのか？」とキツイ言葉で言い返すと、そばに居たヤーさんらしき男が、ワシの方に向き、上着のボタンを開ける。アララララ？　［ブロウニング４５口径］を見せる。ナニを言う訳でもなく、目の前でそれを見せられたら、マサに何も言えず息をのむ。
　また「売って呉れませんか？」と訳ワカラン話を続けるので、「あの船団は会社の船だから私の判断で売る訳にはイカン！」と答えたら、またブロウニングをチラツカせる。参ったナー。

　「その話には私は一切乗れませんからアー」というて、立ち上がり同行の深サルの職員と階段を上り外に出た。店の外では歩行者も沢山居り、後ろを振り向いても誰一人も奥から出てこなかった。
　その後、日本に帰っても台湾から電話が入り、あの船団を売れ！？
社長が傍に居て、何を言っておるのか？と問うから、カクカクしかじかと話すと周りに居た従業員達は全員で大笑いした。

◆

【石碑からのコピー】

「南米産業開発青年隊の魂ここに凝固して学舎の礎を永遠に築く」

建設大学校中央訓練所長　長澤亮太

産業開発青年隊は、昭和二五年（１９５０）戦後復興における二三男対策のため、地域青年団が主体となって産業開発青年隊運動を実施することから始まったものである。その活動の基本は、「昼は働き、夜は学ぶ」であり、まずは、山形県、宮崎県でその活動が始まった。

昭和二八年（１９５３）四月、建設省における「国土総合開発促進のための産業開発青年隊導入要綱」が決定された。その導入において尽力されたのが、長澤亮太氏である。それにより、北海道、秋田県、山形県、埼玉県、長野県、静岡県、富山県、島根県、福岡県、佐賀県、宮崎県において建設省が主導とする産業開発青年隊事業が開始された。

昭和三〇年（１９５５）六月、産業開発青年隊における南米移住事業の必要性により、主にブラジル移住要員の要請訓練が開始された。そして昭和三十一年（１９５６）南米産業開発青年隊として、第一次隊十七名の隊員が、オランダ船ルイス号で神戸を出港した。そして翌年同じくルイス号で第二次隊十名の隊員が渡伯した。この一、二次隊は、南米産業開発青年隊移住手続きが未完であり、ブラジル国コチア産業組合の枠で移住をしている。

昭和三十三年（１９５８）南米産業開発青年隊第一期生十六名がアメリカ丸で神戸を出港し、そして十期生三十三名が昭和三十九年（１９６４）に集団渡航することとなった。その後十一期生以降空路による移住となり、二十三名が渡伯している。その総数は三百二十六名となる。

そして、これまで一年制であった教育訓練を、２～４年制にするべく、建設省建設大学校中央訓練所を富士宮市根原に設置することとなった。それは、日本の象徴である富士山の麓の地から、海外進出させる青年に対して、

心技体の教育を行うためであった。これは、長澤亮太氏の信念でもあった。

この設置においては、当時の富士宮市長山川斌市長、そして、地元開拓者のリーダーであった静岡県議会議員の植松義忠議員の大きな理解により実現した。それと同時期、山川市長より建設省あてに、富士宮東高校の移転のための敷地造成工事の協力依頼があった。内容は、予算が少ないため、自衛隊に交渉したが思うようにいかない。産業開発青年隊の実力を見せてもらい、あわせて、誘致するためにもなるというものであった。

そして、南米産業開発青年隊九期生三十一名が乗船前夜までの突貫工事で、造成工事に取り組んだ。毎日のように校長や、担任の先生が生徒を連れて励ましに来るので、隊員は一生懸命に張り切った。

予想外に大きな岩石の続出と、汲めども尽きぬ湧水と、雨また雨の連続に悩まされながら、昼も夜もなく工事を進めた。

移住隊員が出港した後は、昭和三十八年度（１９６３）の新入隊員が継続し、昭和三十八年（１９６３）十月に完了したのであった。

産業開発青年隊は、平成八年（１９９６）三月に閉校になったが、昭和二十八年（１９５３）より閉校までの修了生は、海外研修生を含め約二万名であり、そのうち中央訓練所修了生は、約４千名である。多くの修了生は、国内はもとより、世界各地で活躍をしているのである。（以上、石碑より）

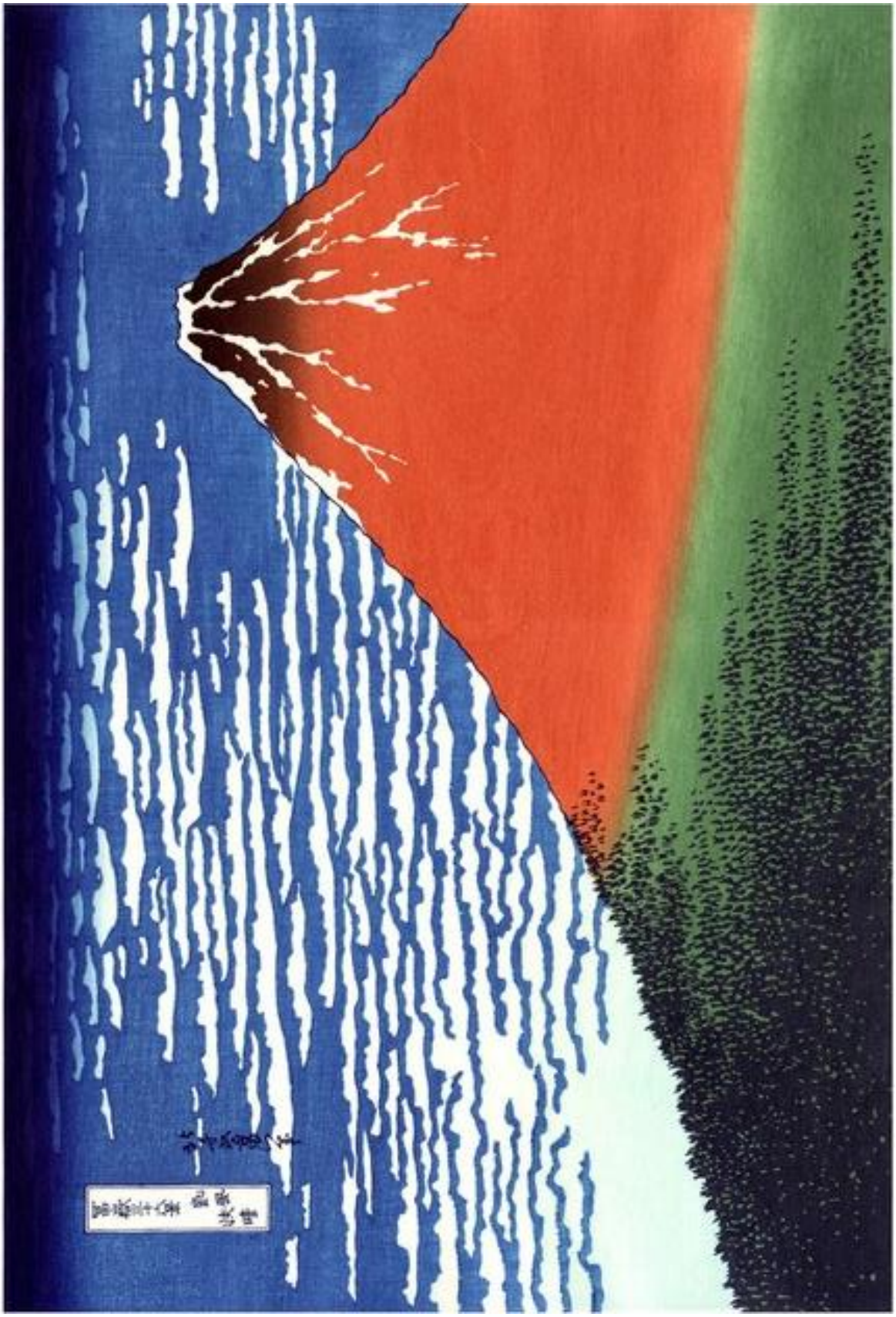
最後に、長澤亮太氏が愛してやまない彼の詩を記します。

≪　富士の如く　美しく雄大に　尊厳なれ　≫

【編集備考】
この文は日本の青年隊 **OB** 会会長の鈴木浩明様が石碑の文章を書き写されたものをメールで送ってくださり、その縦書き文を横書きにしたものです。
なお、昭和・平成での年号にカッコを加筆し西暦年数を記入しました。

◆

【浮世絵】葛飾北斎　「富嶽三十六景」の赤富士



◆

近況報告

日本 OB 福岡県太宰府市 光森徳雄

お世話になっております、年が明けてもう弥生３月になりました。
私の住んでいる太宰府市では天満宮の飛梅が例年の春先の話題ですが、今年は遅れ気味でやっと満開が過ぎたところです。

一方では桜の開花予想は今月１５日ごろと早めの予報が出されています。コロナ禍は未だ収束との宣言は出されていませんが、来月からはインフルエンザ並みの扱いとなり、マスク着用も大幅に緩められて病院や高齢者施設等を除いては自己判断となります。会食、スポーツ観戦やコンサート等も規制がなくなります。私は満員電車でもマスクは自己判断になりますが生真面目な日本人が直ぐにノーマスクとはならない気がします。

そんなマスク不要のなかで、今化粧品業界はマスク着用で落ち込んでいたリップクリームの売り込みにあの手この手の宣伝合戦が繰り広げられています。ただ、女性からは口周りに自信がないからマスクは外せないとの声も。どうなりますやら、どうでも好いけど。
心配されていた中国の旧正月の民族大移動でしたが心配されていた再流行の懸念は危惧に終わり、世界的にも下火になりそうとの観測が主流になりそうです。南青協の７５周年大会も挙行されそうと少し安堵しています。もっとも私が参加できるかは私の体力次第なので、何とか参加しようとリハビリ＆ストレッチは毎日続けています。

日本も、ロシアのウクライナ侵攻で燃料や食料の不足でインフラが進んで値上がりが続いています。更には中国の台湾侵攻も懸念され、北朝鮮はこの間隙を縫って核開発に拍車をかけています。きな臭いムード漂う周辺情勢のなか、インフレ克服と景気回復はなるのか厳しい局面は続きそうです。心配の種は尽きませんが、先ずは健康第一でしょう。心配し過ぎないようにしながらも御身大事に努めたいと思っています。

◆

「一生ボケない脳をつくる７７の習慣」（3）

11　ブログやフェイスブックを活用する

ブログやFBは不特定多数に向けての「公開日記」。
思い出したことを「他人にもわかるように」書き出すことで、
一層「出す力」にも磨きがかかる。

日記はあくまでプライベートのもの、自分だけがわかればよいのですが、ブログやフェイスブック（以下 FB）は不特定多数の人たちに公開されるだけに、他人にもわかるような書き方でなければそこに「書き出す」意味もなくなってしまいます。それゆえ、日記よりはるかに言葉遣いや表現に気を使うことになるので、「表現力=出す力」のトレーニングになります。

多くの人は日常、「考えて文章を書く」という機会はないのではないでしょうか。仕事の予定を手帳に書き込む、会議の要点をノートに記録する、電話の内容をメモする・・・・・これらはあくまで書き「入れる」作業であり、記憶や考えを書き「出す」作業とは一線を画します。

また、ビジネス文章や企画書などを書くことはあっても、これらもどちらかというと、定型パターンに従って、資料や文献から必要事項を書き「入れる」作業に近いといえます。

脳のなかのあちらこちらに散らばった情報や知識や記憶を引っ張り出してきて、さらにそれらを、他人にも理解できるように書き出す・・・そのように書こうと思うと最初はそれなりに時間もかかるかもしれませんが、やっているうちに前頭葉のサビつき部分にも潤滑油が注され、スムーズに働くようになり、そうなるとおのずと「すらすら思い出せる・書き出せる」ようになるのです。

１２　新しい人と知り合う

ブログやＦＢによって構築される未知の人たち・モノ、世界とのネットワークが、知られざる自分や新たな可能性への扉を開き、脳に快感を与え、活性化させる。

前述のブログやFBの効用は、「表現力=出す力」アップにとどまりません。

あなたが書き出した内容に対して共感を持った人、それが有益情報として役立ったという人、時には「異議あり」と反論してくる人・・・見知らぬ人たちから様々なリアクションが来ることもあります。そのような、もしブログや FB に書き出さなければ知ることもなかった人たちとの「つながり」ができ、ネットワークが生まれるのです。

そこからまたあなた自身が、これまで得ることのなかった新たな情報や知識を得たり、様々な人たちの思考から刺激を受けることになります。

そしてそのネットワークによって新たな「気づき」を得たり、未知の世界を知ることになったり、また、あなたの奥深くに眠っていた才能や可能性が呼びさまされることもあります。

さらに、実は「脳」というのは、他人とのネットワークから大きな快感を覚え、より活性化するもの。逆にいえば、無口になって人と話さなくなった生活、ブログや FB なども利用せずこれまでの枠を出ない付き合いしかしなくなってしまった生活のなかでは、脳はしょぼくれ、どんどん縮んでいってしまいます。

ネットワークには、脳を、そして心身を活発に若々しくさせる力があるのです。

１３　身近なもので「思い出す」きっかけをつくる

日常のなんでもないことでも、「思い出そう」と思えば思い出せる。「思い出そう」としなくても自然に「思い出の連鎖」が起こることも。

日記やブログ、FB は、日常の小さな出来事でもあえて「思い出そう」とすることで「出力系」の鍛錬になると先述しましたが、無理に思い出そうとするまでもなく、何かのきっかけで次々と「記憶」「思い出」がよみがえってくる場合もあります。

普段からそんな「思い出の連鎖」のきっかけになってくれる「モノ」を身近に置いておくと、これもまた出力系の鍛錬にはうってつけのツールになります。

例えば、「地図」。地図帳をめくっていると、青春時代に旅したあの山村や港町、かって家族で旅行した観光地のこと、そしてそこでの様々な思い出が走馬灯のようにめぐります。

辞書や単語帳などでもよいかもしれません。「言葉の記憶」の確認になるということはもちろんですが、「懐かしの英単語帳」などは、その単語帳を使って必死に受験勉強をしていた頃の何気ない出来事なども、にわかに思い出されてくるものです。

また、「図鑑」や「カタログ」。子供の頃に夢中になった昆虫図鑑、若い頃にはまったオートバイのカタログからは、好きだった昆虫やオートバイのことだけでなく、それらに熱中していた頃の自分自身の思い出までもがふとよみがえってきます。

そうしてその頃の熱い思いに再び浸ることが、脳に心地よい興奮を呼び起こします。このことがまた脳の若返りを促進し、「一石二鳥」の相乗効果が期待できるというわけです。

１４　お金を上手に遣う

お金を遣うこと＝お金を出すことは、「出力系」の行為。
しかも、使う人の「表現力」や「オジリナリティー」が現れ、
創造力や企画力、計画力が問われるクリエイティブな行為でもある。

日本人は「貯蓄好きな民族」といわれます。お金を貯めるのは「人力」、使うのは「出力」ですが、知識や情報もため込むだけため込んで「使わない・出さない」でいれば何の役にも立たないように、お金も「貯める」ためではなく「遣う」「出す」ためにあるのです。

知識や情報がありながらそれを使えないのは、表現力が不足しているか、オジリナリティーがないからですが、お金も同じ。お金の遣い方には、人それぞれの表現力やオリジナリティが如実に現れてきます。

また、同じお金を遣うなら、浪費や無駄遣いではなく、お金を遣うことを存分に楽しみ、それによって幸せな気分になれるのがベスト。だとすると、何にどのくらいのお金を遣うのか・・・「お金の遣い方」は結構、真剣かつ奥の深いテーマです。

「どうお金を遣うか」を考えるとき、ここは前頭葉の出番です。

「オトナの贅沢」では「ケチは厳禁」ですが、そうはいってもお財布事情もあります。そのなかで、「何にどのくらい使い、結果、予算内におさまり、しかも自分が大満足する」使い方を考えることは、創造力や企画力、計画力が問われる、きわめてクリエイティブな行為なのです。

１５　お金の：遣い方をしっかり考える

「老化していく人」ではなく、
「若返りする人」になりたければ、
「お金をただ、ちまちまと遣う人」になるより、
「金遣いの達人」たれ。
そんな「金遣いの達人」とは。

現役時代は子供の教育費やマイホームローンに追われて、またリタイア後には年金生活になることから、「節約しなくては」と多くの人が考えがちです。

しかし、長年ルーティンの生活を送り続けたうえに、それでなくても閉じこもりがちなリタイア後にもただひたすら節約生活では、脳の出力系、前頭葉が刺激されるチャンスはなくなってしまいます。

余欲がないからこそ、限られたお金しか入ってこないからこそ、その限られた「資金」をどう遣えば自分自身や家族がハッピーになれるか・・・それを前頭葉全開で考えるのです。

もしその結果に素晴らしく満足できれば、それが前頭葉には何よりのご褒美。ますます張り切って働いてくれるようになり、脳はどんどん若返っていきます。

また、お金は「遣うときには遣う」ほうがかえって節約になります。
普通は「今月は贅沢したから来月は引き締めようかな」とおのずとなるもので、一方でケチケチ生活で余剰金が生まれても「贅沢していないんだからこれくらいは」と、つまらないものにちびちびとお金を遣い、結果的に無駄遣いをしてしまうことはままあることだからです。

前頭葉を使ってお金を遣う「金遣いの達人」になるか、ただちまちまとお金を遣う人になるか。そこがまた「若返りする人」「老化していく人」を分かつ一線になります。

以下は次号へ続けて掲載します　◆

【名画】

ジャン＝フランソワ・ミレー《落ち穂拾い、夏》

1853 年　油彩・麻布　38.3×29.3cm 山梨県立美術館蔵　◆

【編集委員メールアドレス、ご連絡用電話番号】

そ が よしなり
曽我義成 **ysoga@rimobloco.com.br** 事務所**(Escritório) 11-4057-2377**
携帯**(Tel. Celular) 11-97120-0863**

ぼんこはらくにひこ
盆子原国彦 **kbonkohara@live.jp**

おさだたかとし
長田譽歳 **takatoshi.osada@gmail.com** 自宅**(Residência) 11-5563-6929**

こやまのぼる
小山 徳 **tokukoyamano@gmail.com**

しかたすすむ
志方 進 **ssshikata@gmail.com** 自宅**(Residência) 15-3279-1521**

皆様ふるってご投稿ください。ご投稿を受信しましたら、着信通知を発信しておりますが、ご投稿の到着を確認してください。
ご意見、ご提案、お叱りなどもお寄せください。

【新電話番号をお知らせします】（敬称略）

５期 89 番 菊池義治 Cel.（０１１）９９９５７－２８３６
７期 160 番 吉田茂治 Casa（０６１）９８４０７－５３８０
10 期 286 番 佐藤勝 Cel.（０１１）９７４２３－６３８８
単独 305 番 齋藤信夫 Cel.（０４５）９９１０３－１６１２

【次号予定、お願い】

次号は６月上旬に発行予定です。
ご投稿は５月２１日(日)までにお願い致します。

【編集後記】

今号も多くのご投稿をありがとうございました。
皆様お元気でお過ごしください。

◆